

教科・科目		対象学年	単位数	教科書（発行者）	補助教材（発行者）
芸術・書道 I		1年	2	書 I（光村図書）	各種プリント
科目の概要と目標		<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 			
授業の進め方		教科書、プリント、タブレットを使用し、表現と鑑賞をバランスよく取り入れる。 自身の作品や他者の作品の鑑賞にあたっては、表現の意図について発表したり、互いに批評し合ったりする活動を取り入れる。			
評価の観点と方法		評価の観点…①知識・技能 ②思考、判断、表現 ③主体的に学習に取り組む態度 方法…作品、ワークシート、鑑賞レポート、課題、制作態度等を総合的に評価する。			
学期	単元・学習項目	学習内容・到達度目標			
年間授業内容	はじめに ・書写から書道へ ・用具・用材を知る 漢字の書の学習 [楷書の学習] ・孔子廟堂碑 ・九成宮醴泉銘 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 ・牛欄造像記 ・鄭義下碑 ・楷書による創作 篆刻実習 ・姓名印の制作 展覧会鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。 楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。 篆刻における印の名称や種類、使い方、用具・用材について理解する。 手順を理解し、構想を練り、制作へつなげる。 展覧会で多彩な作品を鑑賞し、書にも様々なジャンルがあることを知り、感じたことを自分のことばでまとめることができる。 			
	[行書の学習] ・蘭亭序 ・争坐位文稿 ・蜀素帖 ・風信帖 ・行書による創作 仮名の書の学習 ・仮名の筆使い、平仮名、変体仮名 ・蓬萊切 ・高野切第三種 ・継色紙・寸松庵色紙・升色紙 ・仮名の書の創作	<ul style="list-style-type: none"> 行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解する。 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付ける。 仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 仮名の古筆や創作作品の価値とその根拠について考え、書の美しさを味わって捉える。 幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。 			
	漢字仮名交じりの書の学習 ・漢字仮名交じりの書とは ・心に響く言葉を書く 表具実習 ・書いた作品を表具しパネル作品に仕上げる。 「響」展にパネル作品を出品	<ul style="list-style-type: none"> 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解する。 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。 幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。 表具の仕方を学び、自分の作品を自分で表具する。 制作した作品を鑑賞し、感じたことやわかったことを伝え合う。 			